



祈り、願い満ちて

一字一筆

静岡の今

一年の計は元日にあり。時の流れによごみはないが、元日ほど前日とは違う気分になる日はない。この日、多くの人は初日の出や神社への初詣で幸せを祈り、今年の目標などを誓ったりする。

例年人出の多い県内の初詣名所では、静岡市・浅間神社約30万人、三島市・三嶋大社約29万人、森町・小国神社約15万人の参拝者(いずれも1日のみ)があった。県神社庁によれば、県内には2825社の神社がある。地域の鎮守の神社も含めて、新年に祈る人の数はおびただしい。私もその一人で元日の朝、町内の

神社に参拝して「家族の健康」をお願いした。

社会人としての門出を祝う成人式も1月の風物詩だ。今年の県内の新成人数は3万5254人で、前年より274人少ない。14日までに全市町で成人式が行われた。県内では大きなトランプルはなかったが、東京や神奈川では振り袖レンタル業者によるトランプルで晴れの日に振り袖を着ることができなかった成人が続出した。一方、都内の児童養護施設では、出身者の新成人が善意で寄せられた晴れ着姿でささやかな成人式を迎えることができたという。まだ人の世に善意あり、人生節目の記念日を汚した業者は許せないが、被害者がいつかもつときれない「晴れ着」を纏う日が来ることを信じてたい。

節目の1月、若者たちには人生を賭けるもう一つの戦いがある。大学入試センター試験である。今年も県内では1万6607人の志願者が挑戦、試験会場には若者の希望と不安が交錯した。

きょう20日は、二十四節気の「大寒」。一年で最も寒い時期をいう。日本海側は豪雪に見舞われたが、日はだんだん長くなり、太平洋側では梅の開花だよりも聞かれる。春に向かうスタートの日でもある。

(前静岡県監査委員・富永久雄)

元日未明の初詣で祈り、願うII
伊豆の国市御門、全日写真連・速藤啓さん撮影